

和光市総合振興計画審議会【総務環境部会】第2回会議 会議要旨

開催日：令和7年10月15日（水）13時29分～15時05分

開催場所：和光市役所3階 庁議室

出席者：中村英夫委員、富岡浩之委員、浜口武委員、栗原次男委員、峯岸正雄委員、浅川茂樹委員、猪原陽輔委員、関口泰典委員、田中克佳委員、中山寿二委員、菱田倫明委員（順不同11名）

欠席者：深井宏之委員、服部周二委員、茂呂あかね委員（順不同3名）

事務局：加山企画部長、中川企画人権課長、神田企画人権課課長補佐、橋本統括主査、力石主査

傍聴者：なし

次第：1 開会

2 議事

(1) 第1回会議 質問・意見について

(2) 第五次和光市総合振興計画中間見直し（素案）について

3 その他

1. 開 会

事務局 本日は、お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。ただいまから、令和7年度第2回和光市総合振興計画審議会【総務環境部会】を始めます。

本審議会は、和光市総合振興計画審議会条例第7条第4項により原則公開となっており、傍聴席を設けています。また、会議後には会議録を作成し、公開いたします。会議録は、発言者の名称とその発言の要点を記載する要点記録の形式とし、市ホームページで公表します。

次に、委員の変更についてご報告します。令和7年10月1日付で、埼玉りそな銀行の柳原様から、同所属の服部様へ交代となりました。また、事務局職員についても1名変更がありましたので、自己紹介します。

＜企画人権課 神田補佐が自己紹介を行った。＞

ここからは、和光市総合振興計画審議会条例第6条第4項の規定により、中村部会長に進行をお願いします。

中村部会長 和光市総合振興計画審議会条例第7条第2項に基づき、会議は成立しています。はじめに、事務局から本日の会議の流れについて説明をお願いします。

事務局 ＜会議の流れの説明を行った。＞

2. 議事

(1) 第1回会議 質問・意見について

中村部会長 次第2、議事について、(1)「第1回会議 質問・意見について」の審議を行います。はじめに、事務局から説明をお願いします。

事務局 <資料1「第1回会議 質問・意見における回答一覧」について、説明を行った。>

中村部会長 資料1の3ページ、27番以降の「市民の和光市に対する意識」について、項目の欄に1ページとあるのは第1回審議会における資料のページ数だと推察しますが、本日の資料である資料2の素案で、該当するページはどちらでしょうか。

事務局 資料2の119ページの内容となります。

<一同 質問・意見なし>

中村部会長 資料1については、所管課への意見なしとしてまとめます。

(2)「第五次和光市総合振興計画 中間見直し(素案)」について

中村部会長 議題(2)「第五次和光市総合振興計画 中間見直し(素案)」についての審議を行います。はじめに、事務局から資料の概要について説明をお願いいたします。

事務局 <資料2「第五次和光市総合振興計画 中間見直し(素案)」について、概要説明を行った。>

中村部会長 本日の審議会では、98ページ、第3章以降を中心に意見交換を行い、最後に第1章・第2章を含めた全体についてご意見をいただければと思います。

それでは、「第3章 どのような仕組みで進めるのか ～計画の実現に向けて～」の審議を行います。事務局から主な修正点の説明をお願いいたします。

事務局 <第3章の主な修正点について、説明を行った。>

猪原委員 103ページ、個別分野計画の名称について、目標像3の「既存建築物耐震改修促進計画」は、ホームページで確認したところ、正しくは「既存建築物耐震改修促進計画」です。

事務局 修正します。

中村部会長 100ページ、「地方版デジタル田園都市構想総合戦略」について、こちらを統合して基本構想になるという図ですが、この総合戦略は現在作成していてこれから取り込まれるのか、既に作成したものが取り込まれたものとして今回の中間見直しの内容となっているのか、どちらなのでしょう。

事務局 策定時には「まち・ひと・しごと創生法」に基づく「市町村まち・ひと・しごと総合戦略」と第五次総合振興計画が一体的に策定されています。その後、国の方で「市町村まち・ひと・しごと総合戦略」が「デジタル田園都市構想総合戦略」と変更となりました。そのため、新たに作成してこれから盛り込むものではなく、「デジタル田園都市構想総合戦略」と一体的な見直し案となっています。

内容については、102 ページに 4 つの取組と関連する目標像を記載しています。

中村部会長 総合振興計画に総合戦略の内容が包含されているということですか。

事務局 お見込みのとおりです。

菱田委員 110 ページの財政推計、歳出の積立金の欄について、令和 6 年度までは毎年のある一定の積立額がありますが、令和 7 年度から数字が大幅に下がっている理由は何でしょうか。また、積立金について、貯蓄しているのか、運用しているのか、毎年の歳入にどのように影響しているのか。もし運用されている場合は、運用状況についても教えてください。

事務局 積立金の令和 6 年度と令和 7 年度の金額の差については、決算額と予算額の違いとなります。また、積立金の予算額は運用利子のみ計上しています。積立金の運用としては、財政調整基金のほか、学校教育施設整備、公共施設整備、都市基盤整備などの特定目的基金があり、その時々状況に合わせて基金に積み立てをしています。将来的な事業のために予算をストックしておくものであり、使う予定のある基金なので、預金による運用は行っておりますが、いわゆる株式などの投資運用は行っておりません。

中山委員 歳入の地方交付税について、和光市は地方交付税があまりない自治体であると理解していますが、令和 7 年度以降、実績と比較して減額となっている理由は何でしょうか。

事務局 令和 6 年度と令和 7 年度の金額の差については、決算額と予算額の違いとなります。地方交付税は、普通交付税と特別交付税があり、交付税総額の割合が普通交付税は 94%、特別交付税が 6%となっています。和光市は不交付団体のため、普通交付税は入りません。特別交付税は、災害などが発生するとそちらに配分がいくため、多く見積もれないことから、予算では 1,000 万円しか見込んでいません。

中村部会長 この財政推計では、今後 5 年間について、おおむね問題なく推移すると捉えていいのでしょうか。

事務局 111 ページの見通しにあるとおり、歳入として市税については、人口増とともに堅調に伸びると思われます。一方で歳出については、区画整理や再開発、公共施設の老朽化対策に今後多額の費用がかかっていくことが見込まれます。和光市は不交付団体のため、これからの財政運営は厳しい状況となることから、選択と集中の考えのもと、有効に活用していく必要があります。

峯岸委員 歳出の人件費について、令和 7 年度から大幅に増額となる理由は何でしょうか。

事務局 会計年度任用職員の勤勉手当の支給が始まったことと、和光市が職員定数を伸ばしていく方針を立てているため、それを反映させたものです。

中村部会長 和光市は財政健全化に向けた取組はありますか。

事務局 現市長の1期目の任期中に事業総点検を実施しました。健全化に向けた大きな施策を行うというよりは、毎年の行政改革において事業ごとの見直しを行っている状況です。

中村部会長 財政の見通しの中で、健全化に向けた現在の取組について言及しなくてよいのでしょうか。

事務局 毎年の行政改革の取組となるため、総合振興計画に記載する事項ではないと考えています。

浅川委員 111ページの最後に「選択と集中」という言葉がありますが、これは本来の意味では、選択されたもの以外は予算を考えませんということになりますが、そういう認識でよろしいでしょうか。選択されなかったことを立案した者の立場を想像しておうかがいたしだいです。

事務局 お見込みのとおりです。

峯岸委員 歳出の扶助費と人件費の関係について、デジタル化が進んでいるにもかかわらず、年々人件費の効率が悪くなっているのはどうしてなのでしょう。

事務局 和光市は福祉に力を入れてきた側面があります。扶助費と人件費の比率について、どこが適正値かは難しい点ですが、職員数が他市に比べて少ない中で職員の人的体制で対応してきたところから、職員定数を伸ばしていく方向に変わってきているという認識です。ご意見として頂戴します。

峯岸委員 私もそういう認識でいましたが、改めて数値を確認したところ、思っていたよりも悪い傾向だったので、質問をしました。

中村部会長 それでは、第3章については、質疑のみで所管課への意見なしとしてまとめます。

次に、「第4章 どのような背景があるのか ～計画の策定に当たって～」の審議を行います。事務局から主な修正点の説明をお願いいたします。

事務局 <第4章の主な修正点について、説明を行った。>

猪原委員 124ページの今後求められる施策のうち、31番の行政改革について、満足度が一番低い取組であるため、重点的な取組が求められるのではないかという意見を第1回会議で出しましたが、125ページの最後の段落の「重要度・満足度がともに中央値より低い取組」の記載内容で意見の対応をしているという認識でよろしいでしょうか。

事務局 お見込みのとおりです。行政改革については、大きな取組を実施するというより毎年地道に取

り組んでいるため、現時点の素案ではあえて言及しておりません。

猪原委員 126 ページ、「⑪」について、上段の文章では「⑪相談体制」、下部の表中では「⑪市民相談」となっているので、表記の統一が必要です。また、「⑫男女共同参画」に誤字があります。

事務局 修正します。

浅川委員 117 ページ、「(2)頻発する地球規模の危機への対応」の最後の段落で、「自らの命は自らが守る」意識を持ってもらいたいという意図であれば、「意識を醸成する場を設けます」あるいは「意識を醸成して参ります」といった表現の方がよいのではないかと思います。おそらく現在もこの趣旨で市内においてイベントが開催されていると思います。

中村部会長 今の関連で、この文章では自助の点だけが言われていますが、公助・共助の視点も言及していいのではないかと思います。同じ箇所、南海トラフ地震の発生確率については、国の方で変更予定という報道があったかと思いますので、最新の表記を確認して更新をお願いします。

事務局 表現について、また発生確率について、いただいたご意見をもとに検討します。

猪原委員 118 ページ、「(4)発展する科学技術の活用」について、本文の内容がデジタル分野の話なので、科学技術では範囲が広すぎると思いますので、「情報技術の活用」または「発展するデジタル技術の活用」に修正した方がいいのではないかと思います。

事務局 いただいたご意見をもとに修正します。

中村部会長 125 ページの最初の段落に「不満と考えられる取組はなくなりました」とあります。満足と回答した方が不満と回答した方を上回ったということかと思いますが、断定的な表現はいかがかなと気になりました。124 ページのグラフの見方にもあるように、満足・不満と回答した人数とポイント配分の関係から、この結果のみで不満がなくなったとは言い切れないのではないかと思います。

事務局 いただいたご意見をもとに表現を修正します。

中山委員 120 ページ、住みやすさと居住年数のクロス集計結果が掲載されて分かりやすくなったと思います。しかし、居住年数が長くなるにつれて住みやすさが下がると予想していましたが、そうした傾向ではないので、この分析が正しいのかなと疑問に思います。例えば5年以上 10 年未満の方は副都心線の影響かなと思いましたが、その後住みやすさが低下する傾向は、予想と違っています。和光市に住みたいから引っ越してきたと考えると、居住年数の短い方の満足度の低さはなぜなのか、グラフの読み解き方が難しいと感じています。

中村部会長 126 ページ以降の前回調査との比較について、文章では図の説明をまとめていますが、その結果を受けた総括的なコメントはできないでしょうか。下降しているものについては書きにくいと思いますが、プラスに転じているものは「〇〇の取組が寄与したものと思われます」など、実際の取組との関連性について言及ができると思います。

事務局 確かに、満足度が上昇している項目について、取組との関連を言及できる項目もあると思いますので、いただいたご意見をもとに修正していきます。

栗原委員 254 バイパスの延伸で、和光高校跡地の利用について、市としてはどのように考えているのでしょうか。中学校建設が必要だというご意見もあるようですが、この第五次総合振興計画の中には見当たりませんが、今後の第六次計画になるのか、考えはあるのでしょうか。

事務局 今年度、埼玉県からの和光高校跡地利用について市に照会があったため、全庁的に検討している段階です。中学校建設について議会からもご要望をいただいておりますが、134 ページの図にもあるように、和光市は出生数が減少しています。また、142 ページの図にあるとおり、15 歳以下の年少人口は減少傾向と推計しており、中学校建設について現状では検討していません。

栗原委員 下新倉小学校を建設するにあたって、小学生が減少していると言われていました。北口も再開発を頑張っていますし、白子にはマンションも乱立していて、出生数が減少しても人口全体では減少しないのではないのでしょうか。北口には中学校が 1 校もないことを踏まえて、今、中学校建設のことを考えなければならないのではないのでしょうか。

事務局 和光市の人口は増加傾向で推移するものの、15 歳以下の年少人口は減少傾向です。また、和光高校の現在の建物は 50 年以上経過しており、そのまま使うのは困難な状態であることや、現在ある小中学校自体も今後大規模改修等が必要になってくる点等を踏まえると、中学校建設については検討していません。委員からいただいた意見については、担当所管課と共有して検討します。

中村部会長 第 4 章については、修正と担当所管課へ委員の意見をお伝えいただきたいと思います。
次に、「策定経過等」の審議を行います。事務局から説明をお願いします。

事務局 <策定経過等の概要について、説明を行った。>

菱田委員 148 ページの委員名簿に名前がないので、修正をお願いします。

事務局 大変失礼しました。修正します。

猪原委員 151 ページ(1)の 2 行目に、「第四次」という誤字があります。

中村部会長 策定経過等については、修正等をお願いします。

次に、第1章、第2章及び素案全体について、何かお気づきの点はありませんか。

田中委員 市民アンケートなどの集計は手作業でしょうか。アンケートの集計はデジタル化しやすいと思いますので、デジタル化を進めた方がよいのではないかと感じました。デジタル化については個人情報の取扱いなど課題もありますが、一般企業ではアプリ等を活用してアンケートに回答していただく手法もあって、そうすれば職員の皆さんも楽に、早くできると思います。

事務局 確かにデジタル化を進めていく方向性であり、AI等の活用をしていますが、職員がまだ使いこなせていない状態であると認識していますので、引き続き努力していきます。

菱田委員 市民アンケートの項目について、例えば、こういった質問で「満足」「不満足」の評価がなされたのか、この文章だけでは分かりにくい状態です。選択制の質問だけでは市民のニーズが測りきれないので、自由記述のような、本当の声を拾えるようにしてもよいのではないかと感じました。

事務局 計画には記載していませんが、自由記述欄を設けており、自由記述の内容も含めた市民意識調査の結果全体について、全職員が確認できるようにしています。

菱田委員 消防団について、第1分団のみが水槽車を持っている状態ですので、地球規模の災害も懸念される中で、各分団がすぐに消火活動できるような体制を整備するように、検討いただければと思います。

事務局 担当所管課にご意見をお伝えしていきます。

中村部会長 パブリックコメントの手法として、説明動画をY o u T u b eにというのは非常に良い取組だと思いますが、市ホームページ上に素案等の資料を掲載し、併せて動画公開という流れでしょうか。

事務局 お見込みのとおりです。

3. その他

中村部会長 最後に次第3「その他」について事務局からお願いします。

事務局 <①審議会後の質問・意見について、②今後の流れについて、③次回会議について、④報酬について、⑤審議会の公表について、それぞれ説明を行った。>

中村部会長 それでは、以上をもちまして、第2回会議を閉会します。ありがとうございました。

閉 会